

AichiAigoNews

CONTENTS

愛知県における愛護福祉賞受賞者

プロフィール (2頁)

歴代の愛護福祉賞受賞者一覧 (5頁)

職員のまなざし (6頁)

平成25年度 ソフトボール大会 勝敗 (7頁)

事務局だより他 (8頁)



川口様 愛護福祉賞



社会福祉法人 豊田市福祉事業団
第二ひまわり



社会福祉法人 双樹会 ワークショップ社



名古屋市あけぼの学園



社会福祉法人 あさみどりの会 べにしだの家



Vol.89

Association on Intellectual Disability of Aichi
aichi_fk@nifty.com
http://homepage2.nifty.com/aichi_fk/

今回の特集は、日本知的障害者福祉協会が表彰している「愛護福祉賞」の歴代の方々（受賞者総数 67 名）と、その中に愛知県から 5 名もの受賞者がいらっしゃる事を紹介致します。

「愛護福祉賞」とは、前号でもご紹介していますが日本の知的障害児者に対して多大なる貢献をされた方々に贈られるものであります。どのような方々が授賞され、貢献してきたかを知る事は、これからの実践を担っていく後継者たちにとっても重要な事と考えます。皆様の功績を学び、今後に役立てて欲しいと思います。

愛知県における愛護福祉賞受賞者プロフィール

平成元年度受賞

氏名 故 舟橋玉耀

出身等 大正15年、春日井市に生まれる。



社会福祉関係

昭和25年7月養護施設恵泉館を設立、幼児専門施設として発足、施設長となる。昭和28年1月精神薄弱児施設に転換、昭和54年3月まで施設長として勤務。昭和53年5月社会福祉法人恵泉会理事長就任。昭和54年4月精神薄弱者更生施設「親愛館」設立、施設長就任。昭和55年4月精神薄弱者通所授産施設「一進舎」設立、開所。

関連の社会福祉事業

協会発足時から知的障害児者への福祉向上に尽力し、昭和49年から始まった「愛知県民間社会福祉施設運営費補助金(民調補助金)」の創設に多大なる貢献をした。

その他の活動

その他、柳城女子短期大学非常勤講師として22年、名古屋聴能言語学院、愛知福祉学院非常勤講師として短期間勤務経験。

日知協

- ・理事 地区代表 S55～S60（3期）
- ・評議委員 更生施設副部長 S63～

愛知協

- ・会長 S42～S59（18年間）
- ・副会長 S36～S41（6年間）
- ・更生部会長 S60～H4（8年間）

著書

「生き甲斐をそっと支えて楽しい暮らし」

平成4年度受賞

氏名 故 川崎 昂

出身等 大正3年、岐阜県に生まれる。



社会福祉関係

昭和38年名古屋市内の自宅を開放し、無認可の作業所「ひかり学園」を設立。昭和45年に教員を辞め、犬山市に精神薄弱者更生施設「ひかり学園」を設立、施設長就任。昭和61年退職。

関連の社会福祉事業

長男が三重県熊野市の精神薄弱者更生施設「紀南ひかり園」を設立。設立発起人に就任。平成10年小牧市に「あいち清光会」の設立代表者となり、知的障害者更生施設「サンフレンド」を設立。支援者心得12条を提唱し、現在も大切にしている。

その他の活動

昭和27年愛知県で中学校初の特級学級の担任となる。昭和29年名古屋手をつなぐ育成会を設立、初代支部長となる。また、虹の絵師山本良比古の育ての親として、障がいを持つ方の可能性と希望について各地で講演と啓蒙活動を行う。

愛知協

- ・副会長 S48～S51（4年間）
- ・副会長 S54～S59（6年間）
- ・更生部会長 S52～S53（2年間）

著書

「ちえ遅れの子の版画指導」、「虹の絵師山本良比古」、「不思議の画家 山本良比古」、「誠「ひかりの窓」徒然」、「鼓草（句集）」

平成16年度受賞

氏名 島崎春樹

出身等 昭和9年、岐阜県郡上市
に生まれる。



社会福祉関係

昭和50年、名古屋市千種区にて精神薄弱児通園施設「さわらび園」園長に就任、母子通園を実施する。昭和57年、西加茂郡三好町にて、精神薄弱者通所授産施設「わらび福祉園」園長に就任、グループホームを併設して障害者の自立生活をめざす。平成7年、名古屋市中村区にて知的障害者入所更生施設・通所授産施設「べにしだの家」施設長に就任、障害者の地域移行を前提とした施設援助に取り組む（平成18年3月まで）。平成14年「れいんぼうワークス」を開設し経営を行う。この間、障害者の地域での自立生活を目指し、現在、法人全体で16ヶ所88名がグループホーム・ケアホームでの生活が実現している。法人としては今後も乳幼児期から学齢期・成人期への一貫した支援体制づくりに取り組んでいく方針である。社会福祉法人あさみどりの会理事長。

関連の社会福祉事業

昭和43年、名古屋市中区の社会教育施設に勤務し（社会教育主事）、あさみどりの会（当時社団法人）の活動に関与。「心身障害児のためのボランティア療育援助研修会」を開催。以後毎年2講（各10～12回）開催し、昭和50年より「ボランティアスクール」と名称を変更して現在も継続中。以来平成25年までの45年間に86講座（946回）開催し、受講者は延べ4,025人に達している。昭和50年、さわらび園園長に就任し、ボランティアセンターと療育相談所を併設し、地域福祉の推進に努めてきた。昭和53年、名古屋市障害児保育指導委員会委員として、障害児保育の推進に努める（平成16年まで）。昭和55年、愛知県国際障害者年推進会議委員福祉部会副部長として、愛知県の障害者福祉計画の作成にあたる。昭和56年、名古屋市早期療育指導委員会委員として、名古屋市の地域療育センター設置の推進など、早期療育の充実に寄与する（平成25年まで）。昭和60年、愛知県精神薄弱者愛護協会（現福祉協会）会長に就任。特に施設長及び職員研修の充実をはかる。ふれあい大運動会、愛護

祭などを開催し、県内の施設間の交流をはかる。

その他の活動

公益事業として「ボランティア育成事業」をはじめ、講演会、セミナー等多数開催し、人材育成および障害者福祉の啓蒙活動に尽力。そのほかに社会福祉法人あすなる福祉会（保育園4か所を経営）理事長などの法人役員を数力所歴任。また、名古屋女子大学、愛知県立大学講師なども務めた。

日知協

- ・評議委員 S60～H5
- ・編集出版企画委員会副委員長 H12～H16

愛知協

- ・会長 S60～H5年（8年間）
- ・療育研究委員長

著書

「坂道をのぼる子ら」、「この子らと共に」、「思い入れ記」、「父たち」、「べにしだ物語」、「愛と自由と安心を」など

平成17年度受賞

氏名 故 松下良紀

出身等 昭和20年、豊橋市に生まれる。



社会福祉関係

昭和42年より、父・松下忠男、母・松下和子によって設立された知的障害児施設「岩崎学園」（昭和28年設立）に奉職。以来、知的障害児の療育に携わるなか、青年期以降の就労と地域生活の課題についても意欲的に取り組み、東海地区初となる知的障害者通勤寮「岩崎通勤寮」を昭和47年に開設。知的障害者の就業支援・生活支援をとおり、彼らがプライドをもった地域生活者として、社会のなかで独立・自活をしていくことを目指した。また、成人期支援の経験から、大人の暮らしを確かなものとしていくためには児童期における発達支援・家族支援の重要性を改めて確認し、地域における療育支援体制の構築を積極的に推進してきた。

関連の社会福祉事業

昭和47年から愛知県知的障害者福祉協会において、通勤寮部会長、事務局長、副会長、会長、

平成14年度～平成16年度11月までは東海地区会長を歴任する一方、日本知的障害者福祉協会においては、通勤寮部会・編集委員会・地域福祉委員会での活動に尽力するとともに、副会長の重責を担い指導的な役割を果たしてきた。この間、「岩崎学園」「岩崎通勤寮」での実践や国内外の障害者福祉の動向を踏まえ、知的障害者施設の機能強化や今後のあり方についての提言、国制度のグループホームや知的障害者生活支援事業、障害児（者）地域療育等支援事業、障害者就業・支援センターなど、今日において障害児者の地域生活を支えるうえで核となる各種事業の制度化およびその普及に尽力した。

その他の活動

「葦毛の里ふれあいコンサート」を定期的開催し、地域住人と積極的に交流を図り感動を与えてきた。阪神大震災が発生したときには、職員を派遣。

ベルマークの収集を積極的に実施。

日知協

- ・通勤寮部会長 S63～H6
- ・理事 S63～H16
- ・編集委員会副委員長 S63～H6
- ・評議員 S63～H11
- ・地域福祉委員会委員長 H6～H12
- ・副会長 H10～H15
- ・東海地区会会長 H14～H16

愛知協

- ・通勤寮部会長 S52～H5（17年間）
- ・副会長 S60～H9（13年間）
- ・事務局長 S61～H2（5年間）
- ・会長 H10～H16（7年間）
- ・地域療育等支援部会長 H12（1年間）

著書

「精神薄弱施設の新しい役割」第3章「地域生活援助センターとして」江草安彦編著 ぶどう社刊
日本知的障害者愛護協会発行の月刊誌「愛護」（現「さぼーと」）に多数の執筆。

「精神薄弱者問題白書」（現「発達障害白書」）に1984年度版からほぼ毎年執筆。

その他、「働く広場」「手をつなぐ」等にも執筆。

平成24年度受賞

氏名 川口 弘

出身等 昭和14年、現田原市に生まれる。



社会福祉関係

昭和50年に知的障害児施設「豊橋ゆたか学園」の児童指導員として福祉の道に身を投じ、現在に至るまでの三十有余年の永きに渡り知的障害福祉一筋に献身されてきた。その人間味溢れる闊達な人柄と福祉の精神は、周囲の誰もが認めるところである。

氏は「豊橋ゆたか学園」の副園長を経て、昭和59年からは、知的障害者更生施設「豊橋ちぎり寮」の施設長として、手腕を振るう。昭和61年度には当時としては先駆的な「生活訓練棟」を設置し、積極的に自立訓練を開始、数多くの利用者を社会に送出した。また、全国に先駆け、入所者の入院付き添いに入院付き添いに関する互助組織「看護寄金」を施設単独で立ち上げた。

平成5年には施設整備を実施、夜間の生活空間と日中の活動空間を完全分離した構造とし、「どんな障害があろうとも社会参加する」をモットーに、施設生活と社会生活の隔離を解消した。このような数々の取り組みは、県内はもとより県外の多くの施設のモデルになるものであった。

現在運営するとしなが福祉会「ホテルの郷」着任後も、相談支援事業所、ケアホームの開設、生活介護事業所「すまいる」の開設等、多面にわたり、意欲的に取り組まれてきた。

関連の社会福祉事業

・平成15年からは愛知県社会福祉協議会の心身障害ホーム部会の部会長として、様々な障害種別の課題をとりまとめ障害福祉の向上に貢献中である。

・愛知県においては、愛知県社会福祉審議会委員をはじめ、愛知県障害者施策推進協議会委員、愛知県社会福祉協議会評議員、豊川市障害者自立支援認定審査会委員等々、愛知県の障害者福祉行政

の推進に尽力している。

・福祉協会においては、一般社団法人化に尽力し認可を得た。

・障害児者が安心して地域生活が送れることを願い、一般社団法人愛知県知的障害児者生活サポート協会を創設、理事長として尽力し、会員向けに生活サポート制度をはじめ、各種事業として文化活動、スポーツ振興、福祉相談、成年後見（法人後見制度）等の活動を行い、現在では、愛知県において4,600人超が加入し利用されている。また、愛知県だけに止まらず全国知的障害児者生活サポート協会（81,000人が加入）副理事長として、全国を飛び回っている。

その他の活動

日活時代(谷中修)の主な作、演出に、『せおつたこのさだめ』『いつの日にしあわせが』『還らざる青春』等がある。

また、筆名「谷中修」で「ある知的障害者の眩き」「私の前から消えた知的障害者」を出版し、知的障害者の「施設生活」「地域生活」を問う著書を出版している。

日知協

- ・理事 H16～H17/H24～現在
- ・評議員 H22～H23
- ・東海地区会会長 H16～H17/H24～現在

愛知協

- ・会長 H16～H17（2年間）/H22～現在
- ・副会長 H11～H16（6年間）
- ・事務局長 H12～H15（4年間）
- ・更生部会長 H5～H12（8年間）

著書

「ある知的障害者の眩き」、「私の前から消えた知的障害者」

日本知的障害者福祉協会 愛護福祉賞受賞者一覧

昭和 56 年度	昭和 57 年度	昭和 58 年度	昭和 59 年度	昭和 60 年度	昭和 61 年度
登丸 福寿 妹尾 正 渡邊 寛 前田 直蔵 松原 太郎	後藤 静一 山下 充郎 坂本 次人 長野 幸雄	授賞該当者 ナシ	池田 太郎 田村 一二	飯島 十郎 岡崎 英彦	高山 宗俊 中村 興吉
昭和 62 年度	昭和 63 年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度
岩崎 乾一 今野 光治 増田 正司	田ヶ谷 雅夫 大野 明良 団体 (社福) 侑愛会	菅 寿子 酒匂 守正 舟橋 玉耀	日高 哲志 淵上 薫 中村 健二	釘宮 謙司 川田 仁子 八谷 祐司	茂古沼 勲 瀬端 利男 出縄 明 川崎 昂
平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
米原 文丸 栗林 恒俊 牧野 弘典	山下 勉 柴田 武男	大場 茂俊 廣本 肇	能 次雄 細井 弘順 田中 了諦	菊池 耀一 江草 安彦 武元 典次郎	森岡 永吾
平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
古川 弘	授賞該当者 ナシ	野村 健	諫山 眞司	四衛 廉	島崎 春樹 雄谷 助成
平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
木原 清 松下 良紀	湯浅 正邦 村田 豊 高田 久	田島 茂	山崎 忠顕 浅井 一志	三津田 和行 水流 洋	林 拓 室崎 富恵
平成23年度	平成24年度	平成25年度			
授賞該当者 ナシ	川口 弘 松岡 静久 小松 守	志賀口 弘 立石 教通 西村 孝志			

※網掛け部分の方は愛知県受賞者

◆◆◆◆職員のみなざし◆◆◆◆

～学園の子どもたちに

寄り添って～

名古屋市あけぼの学園
保育士 加藤 智子

「子どもたちはみんな元気かな」と出勤すると、元気どころかトラブル続き…。穏やかな状態をつくりだしたいと思っていても叱る始末。始終にこやかな状態を作り出したいとしても、その願いは見事に崩れ落ち込むこともありました。私が勤めている中・軽度棟は発達障がいや被虐待児など様々な子たちが一緒に暮らしています。何らかの心のケアが必要です。会話でのコミュニケーションがとれるものの、些細なことで人をなじり、いじめ・暴力に至ることも多いのが悩みです。児童同士、距離を置くことで気持ちを納める場があればいいのですが、そういった場所もありません。一度出た暴言は、相手の心の傷を更に広げさせ、八つ当たりの基となり、悪循環を引き起こします。耐性力のない児童にとっては、悲しい過酷な状況です。そんな中、児童の行動から、一緒に喜んだり悲しんだりしながら「共感」することを大事にしています。そして、児童が世の中の常識や規律を守りながら穏やかに過ごせるような援助方法を模索しています。実際は思うように援助できませんが、職員のチームワークが良いので、それをばねに頑張っているところです。

『意外な才能』

社会福祉法人あさみどりの会
べにしだの家
支援員 三輪万莉絵

「アメリカンバイソンが見たい」。長い舌で懸命に木の葉を絡め口に運ぶキリンの姿に見惚れていた時、隣にいた利用者 K さんに突然喧かれた。

べにしだの家では、利用者さんの誕生日にその方の好きな場所へ行ったり好きな物を食べに行ったりする“入所レクリエーション”を行っている。私と K さんはその日、東山動植物園に来ていた。

「アメリカンバイソンは…」動物園のパンフレットを見ながら歩き出そうとすると、K さんが「こっち」と指さし地図も見ずに歩き出した。行きついた先は、気持ち良さそうに眠っているアメリカンバイソンのエリアだった。その後も「コビトカバが見たい」、「ゾウガメが見たい」などと園内を歩き回り、私が「白クマかわいいね」と言うと「違う、ホッキョクグマ」と訂正された。思えば動物園内の地理も動物の名前も完璧なのだ。

障がい者というだけで世間から距離を置かれがちな彼らだが、意外な才能に私達が学ぶことも多い。尊敬しなくてはいけない存在であると改めて感じている。

「続く支援」

社会福祉法人 豊田市福祉事業団
第二ひまわり支援員 二宮昇平

第二ひまわりは豊田市の中心部にあり、知的障がい者の方を支援する生活介護事業を実施しています。午前はウォーキングやスポーツ、午後はそれぞれの作業班に分かれて紙すき・さおり織り・空き缶潰しなどを行っています。

以前、私は訪問入浴介護の職に就き、主に高齢者の入浴に重点的に関わらせていただきました。第二ひまわりでは、利用者の方の日中生活の充実により大きく関わらせていただく環境にやりがいを感じています。第二ひまわりに勤め出した当初、利用者の方が部屋から作業室へ移動する際にドアの開け閉めを私がやってしまっていたことがあります。それによりその利用者の方は、ドアを開け閉めするという習慣が一時的になくなるということがありました。以前の職以上に一動作一動作が、利用者の方に将来どのような影響をもたらすかを想像しながら支援をする大切さを学べた出来事でした。「継続は力なり」利用者の方としっかり向き合い、一気にではなく無理なく、継続する事を頭に置いて、日々の支援に当たっています。

『バランスのとれた支援を行っていくために』

社会福祉法人 双樹会
ワークショップ杜
サービス管理責任者 菅沼 章

昔読んだ本で、次のような記述がありました。

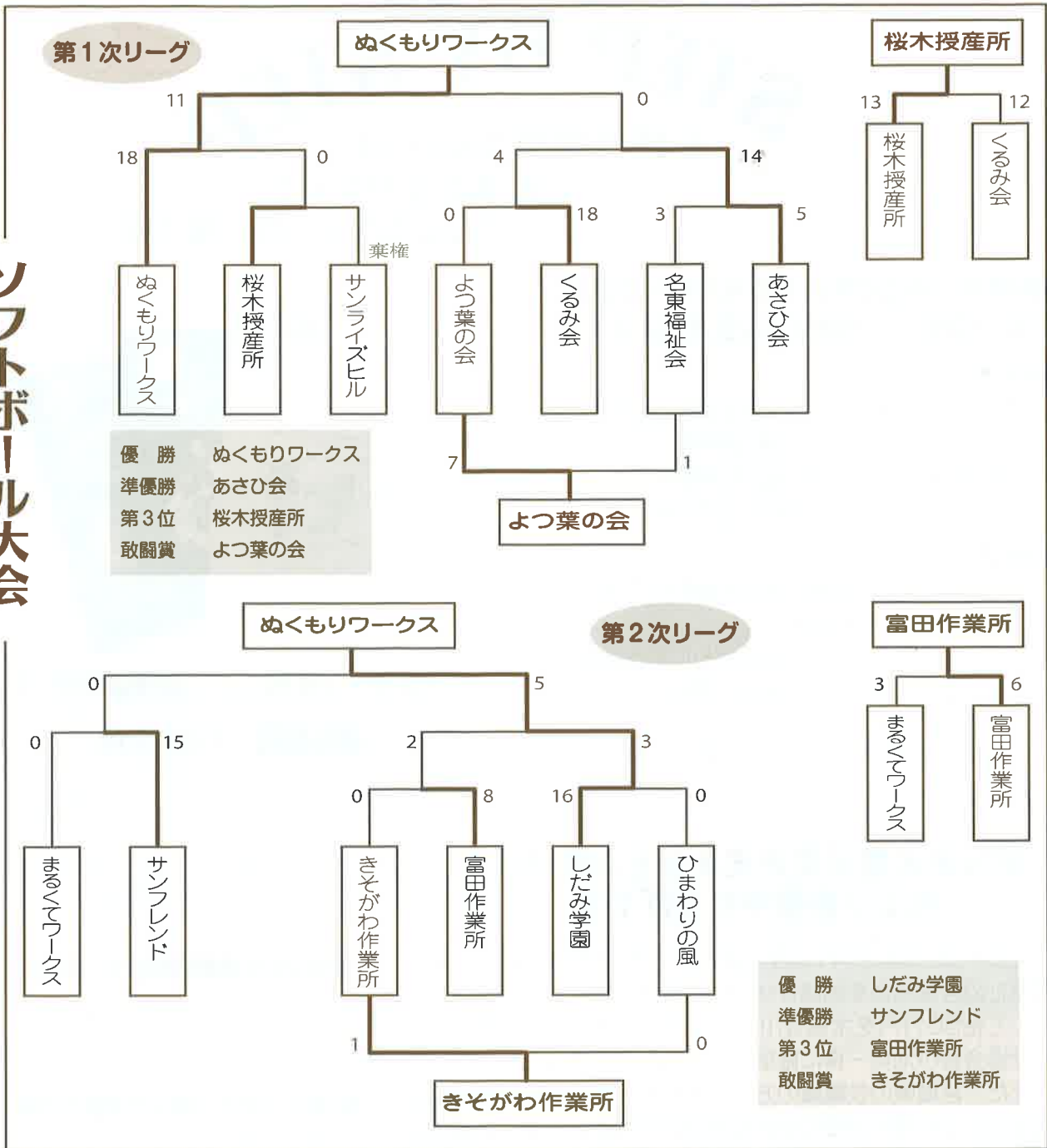
「相手を見ていて“この人のここが嫌い”と感じるものは、“自分が昔同じことをやっていた、またはやりたかったのに（しつけ・教育などによって我慢させられ）、その反対をがんばって行ってきた”ことで、自分では気付いていないけど、今でも自分が似たようなことをしている」のだそうです。私は、「騒がしい、やかましい」ことを嫌って、静かにおとなしく生きてきましたが、静かに生きているつもりの自分では気付かないけど、実は私は騒ぎたい人で、実際にやかましい場面がある」という事らしいです。

例えば、私は利用者さんが作業中に騒いでいることを“悪い”と捉えて、静かになっていただけるような環境を考えてきましたが、本を思い出して一度立ち止まってみました。

私がうるさい時はどんな時か？「騒がしい、やかましい」は、“元気で楽しい”とは言えないか？私はみんなの楽しみを奪っていないか？支援を行う際、相手を見て悪いと感じることを、一度自分にあてはめ見つめ直してみることで、一方的な解釈をやめ、バランスのよい視点を持ち、自分勝手な支援にならないよう心がけています。そしてなにより、ひとりで決めず、職員間でよく議論するようにしています。

愛知県知的障害者福祉協会 大会結果

ソフトボール大会



平成25年度 (第18回) 知的障害者フットベースボール大会

平成25年11月13日開催

試合コート	チーム記号	施設名	①	②	③
A	ア	白沢作業所	○8	○14	△
	イ	はあと平針	×1	△	×5
	ウ	サンプルド	△	×10	○13
B	エ	being桜山	○35	△	桜山×小本
	オ	若杉作業所	×0	△	勝者チーム
	カ	being小本	△	○9	8-0
C	ク	まるくてワークス	○13	○8	△
	ケ	てふてふ	×3	△	○11
	コ	being吹上	△	×5	×2
D	サ	ときわ会	×1	△	守山×富田
	シ	守山作業所	○11	△	勝者チーム
	ス	桜木授産所	△	×5	13-7
	セ	富田作業所	△	○10	

- 優勝: まるくてワークス
- 準優勝: ジョブサポート
- 第3位: センター being 桜山
- 敢闘賞: 守山作業所
- 白沢作業所

優勝
まるくてワークス

STEP BY STEP

支援の現場を知りたい!
元気になりたい!
そんな人たちへの一冊です。

知的障害・発達障害のある人たちへの支援
17号 特集 「地域生活を支えるために」

特別寄稿

- 1 「インシデント・プロセス法による問題解決の実際」
豊田西病院 / 小野 宏
- 2 「発達障害者支援における認知行動療法」
浜松医科大学子どもこころの発達センター

実践研究

- 1 「べにしだの家が進めてきた地域移行について」
- 2 「A型事業所を立ち上げ、
工賃引き上げに取り組んだ実践報告」
- 3 「サービス管理責任者の役割と課題」
- 4 「虐待防止の取り組みについて」
- 5 「相談支援専門員とサービス管理責任者の連携」
など



15号・16号 好評頒布中！

頒布価格 1,000円

東日本大震災復興支援金をお寄せ頂き 心より感謝申し上げます。

去る平成26年2月19日～20日にわたり宮城県知的障害者福祉協会事務局を訪問させていただき、始めに復興支援金として金50万円を本協会川口弘会長から宮城県知的障害者福祉協会会長小池英一様に贈呈させていただきました。

また、宮城県の役職員の方々と本会から参加した役員と懇談形式により震災直後の状況と今日の知的障害者福祉施設・事業所の復興状況と防災計画や緊急事態が発生した場合の対応としての事業継続計画の策定状況等について、お話を伺うことができました。

贈呈 復興支援金500,000円の内訳は次のとおりです。

平成24年度 復興支援金	283,864円 (6法人)24年度事業報告済分
平成25年度 復興支援金	89,115円 (社会福祉法人さふらん会より)
	127,021円 (本協会より)

☆施設内での 事故に備えて

施設総合補償制度のご案内

①入所者・通所者に対する補償



傷害総合保険・個人賠償責任保険

②施設の管理・運営者に対する補償



施設賠償責任保険

愛知福祉朝日保険サービス
朝日火災ビジネスサービス株式会社
名古屋支店

〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄2丁目14番5号
山本屋本店栄ビル8階